

機関番号：34419

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～2010

課題番号：20720100

研究課題名（和文） 郁達夫における大正文学受容の比較文学研究

研究課題名（英文） The acceptance of Japanese literature by Chinese writer Yu Dafu

研究代表者

大東 和重 (OHIGASHI KAZUSHIGE)

近畿大学・文芸学部・准教授

研究者番号：60434859

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、中国の作家郁達夫が大正日本の文学をどのように受容したのか調べることである。郁達夫は日本に約9年間留学、その間当時日本で流行していた日本及び海外の文学を大量に読んだ。そして日本文学の大きな影響のもと、中国で小説を書き始める。本研究では、郁達夫の残した小説や文学論、日記や書簡などから、郁達夫が日本文学からどのような影響を受けたのか追跡・検証し、同時に郁達夫の目を通して大正文学とは何だったのかについて再考した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to examine the acceptance of Japanese literature of Taisho period by Chinese writer Yu Dafu. Yu Dafu studied in Japan for about 9 years and read a great amount of Japanese and foreign books, which were popular at that time in Japan. He started writing novel in China under the great influence of Japanese literature of Taisho period. I traced and inspected the influence, at the same time rethought the literature of Taisho period through the eyes of Yu Dafu.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：各国文学・文学論

キーワード：比較文学、影響と受容、郁達夫、大正文学、大正教養主義

1. 研究開始当初の背景

大正の日本に長く留学した経験を持つ現代中国の作家郁達夫が、日本文学をいかに受容したのかについては、伊藤虎丸氏の研究以来、佐藤春夫との関係など、特定の作家に集中して論じられてきた。一方、郁達夫の小説・評論・日記・書簡には、膨大な読書量のうちがわせる、数多くの作家名や文学作品名

が現れる。そこには、欧米の作家とともに、多くの日本の作家が登場する。しかし、これらの作家や作品を郁達夫がいかに受容したのかについては、これまでほとんど研究がされてこなかった。

2. 研究の目的

本研究は、郁達夫の小説・評論・日記・書

簡などに残された、外国文学受容の痕跡のうち、特に彼が大きな影響を受けたと思われる、大正文学、及び大正日本で流行していた外国文学に焦点を絞り、いかに受容したかについて、実証的に明らかにした。

3. 研究の方法

郁達夫における大正文学受容については、本研究を開始する前に、すでに『郁達夫全集』に登場する日本や外国作家についての初歩的な調査を終え、部分的にはその成果を公表しつつあった。本研究を開始後は、個々の作家や作品が、郁達夫において、どのような経路をたどって受容されたか、いかにして受容されたか、その結果どのような創作や文学観の形成につながったかを個別に論じる研究を進め、学会発表や論文発表を行った。

『郁達夫全集』に登場する日本や外国の作家は、膨大な量に上る。まず、主要なものについて、一つ一つの作家・作品を、郁達夫がいつ、どのような形で受容したか、検討した。つづいて、これらの作家・作品が、日中両国でどのように受容されていたかの、より大きな文脈での検討を行った。さらに、それらが郁達夫の文学活動、及び大正文学という文脈において、いかなる意味を持つのか、検討を行った。

また、郁達夫における大正文学受容の研究を、より広がりや深みのあるものとするには、他の日本留学経験のある作家たちにおける受容についても、一定の検討を行い、対比させることが必要であるが、これについては平成23年度の段階で基礎的な資料の把握にとどまった。本研究で収集できた資料を利用して研究を継続したいと考えている。

4. 研究成果

郁達夫における大正文学受容の比較文学研究では、以下のような論文を発表、成果をあげることができた。

(1)「郁達夫におけるワイルドの受容 - 唯美主義と個人主義」：郁達夫が最も影響を受けたとされる、アイルランド出身のイギリスの作家オスカー・ワイルドは、明治末から大正にかけての日本、及び1920年代前半の中国において非常に流行した作家である。郁達夫はワイルドを、佐藤春夫をはじめとする大正の作家や評論家たちのワイルド論を通して理解していたと思われる。本研究では、郁達夫が大正日本を経由して、唯美主義者・創造的批評家・個人主義者など、さまざまなワイルド・イメージを受容した経路を検証することで、大正における海外文学受容の一側面について論じた。

(2)「郁達夫における大正の自伝的恋愛小説の受容 - 『懺悔録』・『受難者』・『新生』」：本研究では、郁達夫が一九二七年に発表した「新生日記」、及び前後の文学論を手がかりに、郁達夫における大正の自伝的恋愛小説、ことに『告白』・『受難者』・『新生』の受容を明らかにした。郁達夫の「新生日記」は、王映霞との恋愛を契機に「新生」を目指す、魂の再生の記念ともいうべき作品である。これには、郁が留学中に触れた、ルソー『懺悔録』・江馬修『受難者』・島崎藤村『新生』という、大正半ばに流行した自伝的恋愛小説が大きな影を落としている。郁はこれらの作品と、恋愛三昧による自己発見と、恋愛を通して見出した本来の自己を実現していく、つまり恋愛を契機とする自己発見や自己実現というテーマを共有していることを論じた。

(3)「郁達夫与佐藤春夫 - 再論佐藤文学对郁達夫の影響」：本研究では、これまで郁達夫における日本文学受容を論じる上で最も重視されてきた、佐藤春夫の受容について、再検討した。郁達夫が佐藤に面会したのは、処女作品集『沈淪』の出版前ではなく、すでにその創作手法を確立したのちのことで、しかも郁が訪れようとした大正の複数の流行作家の一人にすぎなかったと思われる。また、『沈淪』所収の諸作にしても、佐藤の『田園の憂鬱』の影響は限定的ではないかと考えられる。本研究ではこれらの前提のもと、郁が受けた佐藤の影響を、その批評や外国文学への嗜好など、従来と異なる方面に求め、その受容のあり方を再検討した。

(4)「郁達夫の読書体験 - 日本留学時代を中心に」：本研究では、郁達夫における大正文学受容の全体像を明らかにする前提として、郁の読書体験を、日本留学時代を中心に、幼年期や帰国後にも触れつつ概観した。郁達夫が日本に留学したのは大正2年で、最終的な帰国は大正11年、滞在は約9年間に及んだ。この間、希代の読書家であった郁は、旧制高校や帝国大学で文学に耽溺し、この経験を土台として、帰国後上海で創作活動を開始した。本研究では、郁達夫の創作の源泉である、日本や外国文学の影響を明らかにするために、郁の大正日本における読書体験について、旧制高校という空間、大正文学との共鳴、当時流行していた外国文学の吸収という角度から概観した。

上記の研究を進める上で、郁達夫の大正文学受容と関わる資料や研究書を購入した。ことに、『編年体大正文学全集』など大正文学を扱う上で基本となる資料集や、郁達夫が触れたと思われる日本・外国文学についての書

籍、郁達夫が数多くの文章を発表した一九二〇年代から三〇年代にかけての中国の文学雑誌の復刻、さらに、郁達夫と近い世代の日本留学経験を有する作家たちの全集等、基礎的な資料を購入した。これらの資料については今後も継続して分析を進めたい。

また、毎年一回の現地調査を行った。その過程で、上海・杭州・シンガポール・マレーシアの公立・大学・高校図書館や資料館などで、関係する資料の調査・収集を行ない、中国における大正文学の翻訳や紹介の書籍、また郁達夫の文学と関連する資料を多数閲覧できた。杭州やシンガポールでは、現地の出版社が刊行する郁達夫関連の書籍を収集できた。

同時に、各地で郁達夫の足跡についての資料収集と現地調査を行った。特に、郁達夫の出生地である富陽、中学時代と1920年代後半から30年代前半を過ごした杭州の故居を訪れて現地を視察、さらに、郁達夫が抗日運動を展開したシンガポール、南洋滞在中に訪れたマレーシアのペナンを訪れて現地を視察、郁と関連の深い温梓川について調査した。以上のように、上海・杭州・富陽・シンガポール・ペナンにおける資料収集と現地調査では大きな収穫があった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 大東和重、郁達夫の読書体験 - 日本留学時代を中心に、比較文学研究、査読有、82号、2010、pp. 5-24
- ② 大東和重、郁達夫与佐藤春夫 - 再論佐藤文学对郁達夫的影響、東亜詩学与文化互読 - 川本皓嗣古稀紀念論文集、査読無、中華書局、2009、pp. 397 - 407
- ③ 大東和重、郁達夫における大正の自伝的恋愛小説の受容 - 『懺悔録』・『受難者』・『新生』、野草、査読有、84号、2009、pp. 1-20
- ④ 大東和重、郁達夫におけるワイルドの受容 - 唯美主義と個人主義、現代中国、査読有、82号、2008、pp. 143-155

[学会発表] (計3件)

- ① 大東和重、中国人留学生にとっての〈一九一〇年〉前後 魯迅・周作人・成仿吾・郁達夫、日本近代文学会2010年度秋季大会、2010年10月23日、三重大学
- ② 大東和重、中国人留学生の見た大正日本 - 郁達夫を中心に、超域文化科学フォーラム日韓共同シンポジウム「日本を

- 語る視点」、2009年12月5日、東京大学
- ③ 大東和重、郁達夫と大正文学 - 日本留学時代の読書体験の検討、日本比較文学会第28回中部大会、2009年11月28日、名古屋大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大東 和重 (OHIGASHI KAZUSHIGE)
近畿大学・文芸学部・准教授
研究者番号：60434859

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：